実践記録（小６・道徳）

１　ねらい

仲間の考えを自由に閲覧し、自分の考えと仲間の考えを比較することで、考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。

２　手立て

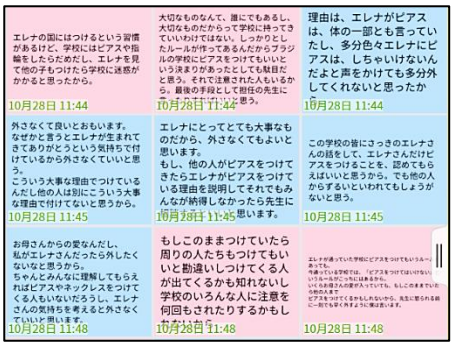
ロイロノート・スクールにある提出箱の回答を共有する機能を活用する。

仲間の立場を視覚的に捉えられるようにするために、「ピアスを外すべき」の立場の場合はピンクのカードに、「ピアスを外さなくてよい」の立場の場合は水色のカードに考えを記述するようにさせる。

提出箱を「回答共有中」にし、すべての仲間の考えを自由に閲覧できるようにすることで、多様な考えに触れ、考えを広げることができるようにする。そして、自分の考えに影響を与えたカードを取り出し、自分の考えと比較することで、考えを深めることができるようにする。

３　実践の様子

展開の場面では、まず、NHK for School の番組「ココロ部」の「外国から来た転校生」を視聴した。ブラジルから来た転校生が付けているピアスについて「外すべき」と主張する級友と「外したくない」と主張する転校生。この二人の主張の間で、学級委員としてどのように振る舞うべきか悩む主人公の姿を見て、自分ならどちらの立場に立つかを考えさせた。動画内の「学校にピアスを付けて来るのはルール違反だ。」「ブラジルの女子にとって、ピアスは母親の愛の証。」などの発言から、自分の立場を決め、その理由を記述していた。記述が終わった児童からカードを提出させた。**【資料１】**次に、提出箱を「回答共有中」に切り替え、仲間の考えを自由に閲覧させた。立場を選んで理由を読む児童や、相手を選んで理由を読む児童など、児童が読みたいカードを自由に閲覧する姿が見られた。また、自分の考えに影響を与えたカードを取り出し、改めて読み返していた。そして、自分の考えと比較しながら「外国の人々と理解し合うためにはどのように関わるとよいか」について考えた。**【資料２】**カードには、「『日本に合わせたほうがいい』とか『外国に合わせると差別になるんじゃないか』という考えを見て、日本と外国のルールを完全に両立することが難しいと思いました。それぞれの国にルールはあるから、その国のルールを守ることも大切だけど、外国の人も自分の国の人も嫌な思いをしないように、自分の国の当たり前なことを見直すことも大事だと思いました。」と、仲間の考えを取り入れた上で自分の考えを記述することができていた。



【資料１】提出されたカード

【資料２】自分の考えと比較する児童の様子

４　成果と課題

○　回答を共有することで、知りたい仲間の考えに自分のペースで触れたり、友達の考えを繰り返し読んだりして、自分の考えと比較して考えを広げたり深めたりすることができた。

●　読解力の低い児童が、仲間の考えを正しく理解できたかを確認できるようにするための手立てが必要であった。